

# 「杜と水辺」の魅力を知り、未来のためにできることを

1601年、伊達政宗公は、広瀬川の流れにより形成された自然崖を天然の要害として仙台城を築きました。そして広瀬川から取水した四ツ谷用水を城下に巡らせるなど、人々の暮らしと屋敷林などのみどりを育んできました。広瀬川は市中心部を流れる都市河川でありながら、現在も荒々しい自然崖と豊かな河岸のみどりが調和する景観を残しています。

杜の都仙台のシンボルとして、市民に親しまれている広瀬川の景観

や自然環境を後世につなぐことを目指し、仙台市は2005年（平成17年）に「広瀬川創生プラン」を策定しました。そして今年、次期プラン（2025-2034）に改定予定。取り組み内容の充実やプラン推進体制の見直しを行うほか、新たに「仙台市ダイバーシティ推進指針」の観点を加え、市民協働による環境保全や安全安心な川づくり、新たな魅力の創出などに取り組むこととしています。市民の皆さんもみどりに親しみ、杜の都の未来を守り創るために、今できることから始めてみませんか。



企画協賛

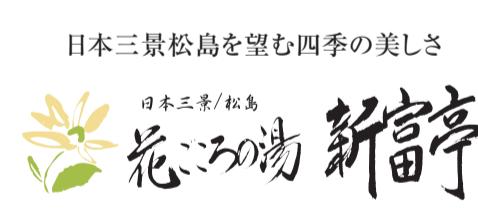
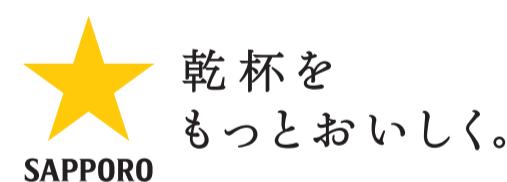
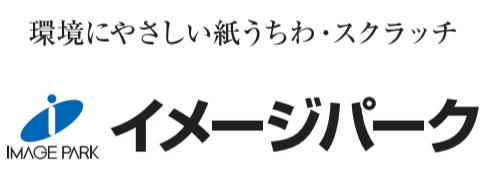


青葉区大手町から見た広瀬川。大橋を渡った対岸（写真左）は、仙台国際センターや仙台市博物館、仙臺綠彩館などが並ぶ青葉山公園

一般協賛



eat 株式会社イート



順不同

本キャンペーンは、ご覧の各社・団体の協賛により実施しています。

主催／河北新報社 協力／仙台市